

電気通信大学「政治学B」配布レジュメ

水曜5限（16：15～17：45） A201教室 講師：米山忠寛

後期第08回：2023年11月29日（水） 遠隔オンライン 実施

来週12月6日は「対面授業」で実施見込みです。

再来週12月13日は「遠隔オンライン」で実施見込みです。

「官僚制」

[告知：試験の実施形式について ★重要]

後期の成績評価についてですが、ガイダンスでも説明したように「レポート試験」の形式で行います。文献を調べる形式でのレポートではなく、論述形式の試験問題を試験会場ではなく自宅で解答してレポート試験としてオンラインで提出するというものです。学生の皆さんにとっては試験会場での試験よりは楽になるものと思います。事前に周知期間を十分にとります。詳細については後日説明します。

（出題されてから勉強しなさいといったことでは対応しきれない可能性があるので事前に試験勉強はしておきましょうという点では試験勉強はそのまま重要です。）

試験： 出題 試験会場（60分間）での解答・提出

レポート形式の持ち帰り試験：

出題 自宅で解答（24時間以内の提出など） オンラインで提出
遅延提出の場合などは5日間・120時間以内など。評価は劣後する。

（前回の復習）◎[大統領]と[首相]の比較。 大統領＝元首（国王の代わり）

◎大統領と首相の強さは様々。ドイツは首相の方が強い。

◎フランスは保革共存の事例も ◎まとめ 大統領より首相の方が強い？

<時事問題・コラム>

（前回の続き）～～

★：「官僚制：音源①A」

「官僚制」 （「議会」「執政府（内閣）」に続く単位。）

○「官僚制」とは、「司法・立法・行政」の中の「行政」に関する部分。それなら同じ行政の「内閣」と一緒にまとめてもいいんじゃないの？ なぜ分けて扱うのか？

○かつての国王による統治の時代であればそれでも良かった（「官房学」など）が、現在の世界の様に議会制民主主義を採用している国が増えた中では「行政」の中で「内閣」は議会との関わりが大きくなっている。それに対して行政の中で内閣の下にあって直接政治に関わらない部分（行政組織）をどう考えるのか、という問題があるから。

※執政府とは具体的には日本では内閣。（大領制の国では大統領・首相など）

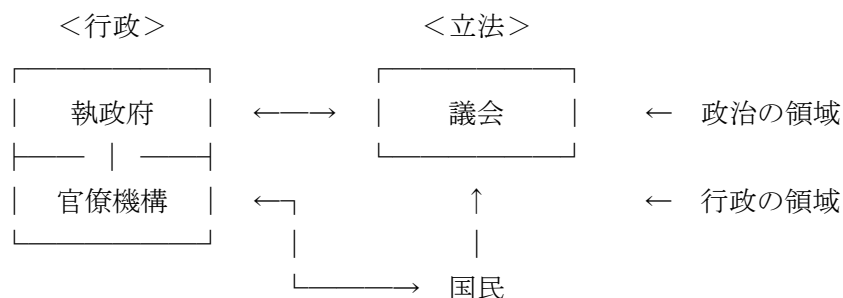
イギリスでは「議院内閣制」であるので議会と内閣はほぼ一体。

[国民→議会→内閣]

アメリカでは「大領制」で、大統領と議会は全く別に行動する。

[国民→大統領] [国民→議会]

「官僚制」の位置付け



○なぜ「内閣（など執政府）」と「官僚機構」を分けて考えるのか。

政治は選挙で変えられる。大統領も議員も辞めさせられる。それに対して官僚機構は直接は関与できない。「政治家の主張が官僚機構の反対で実現できない」といった事例が発生することが少なくない。

- ・また、逆に官僚機構に対して政治家が強過ぎる場合にも問題は起こる。
（悪徳市長が交通事故など事件を起こしたのに、警察署長に言って揉み消し。
汚職事件の揉み消し。それは途上国では珍しくもない、良くある腐敗の典型。）

→それが執政部と官僚機構（「政治」と「行政」）の関係を考えることの重要性。

また官僚機構は直接に国民の生活に関わってくる。国民は官僚機構に比べると弱い存在。従うしかない。ただ議会や内閣を通じてチェックはできる。そのチェックがうまくしっかりと機能しているかという問題がある。

- ・（国民が行政とどう関わるか、議会や行政や国の仕組み全体に関わる問題。）
- ・（就職活動で公務員試験を受験しようという方にとっては特に重要な課題。）

★：「官僚制：音源②B」

○「政官関係」（政治と官僚制の関係）とも言われる。

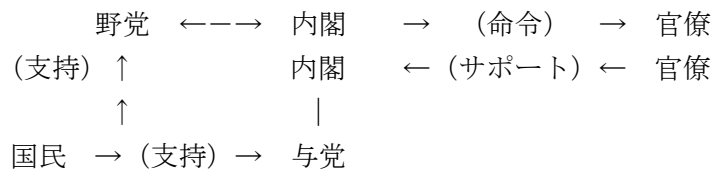
「政」と「官」どちらが強いのか？ これは民主主義についての問題でもある。

「民主主義」が絶対だとすると、「政官関係」で「政」が強くなるべきとなる。
しかし、たとえば議会は与党・野党に分かれている。内閣は与党が支配している。

A：「民主主義」なんだから、官僚は選挙で勝った〔与党＝内閣〕の言うことを聞け！
というのも一つの立場。
だって「官僚制」は「内閣」の下にあって、その命令を受ける立場でしょ。

B：でも官僚は国民のための存在であって〔与党＝内閣〕だけの組織じゃないよね。
という点についての注意も必要。
政府は内閣が預かっているのだけど、なんでも自由にできるわけじゃない。

○「政官関係」は単純に「政治家が良い・官僚は悪者」というものではない。
政治家が汚職をしようとしても官僚はそれに黙って従わないといけいないの？
官僚は政治家（内閣・副大臣・政務官・与党）のサポート役だけど、下僕ではない。
無理難題を言って良いわけではない。官僚・公務員は内閣だけでなく国民に雇われている。内閣に命令されても「国民を裏切ってはいけない」。でも内閣は国民により選ばれている。



難しい問題が起こるのは、典型的には警察など。

○日本では戦前に「政党政治」が実現し、二大政党制となっていたが、その後
国民の信頼を失っていった。その原因がこの政官関係（特に警察）の問題。

★：「官僚制：音源③C」

戦前の日本では「内務大臣」「警視総監」の影響力が非常に強かった。
警察（内務省の下部組織だった）が、首相・内務大臣・警視総監の意向を
過剰に気にする傾向。（黒澤良『内務省の政治史』藤原書店、2013年）

選挙に際しての選挙違反の取り締まり（買収事件やポスターの違反など）について、
与党に甘く（＝逮捕しない）、野党に厳しい（＝逮捕する）。2：8くらい。

二大政党制で与野党が逆転すると逆になる。

（政友会内閣での選挙では、民政党の候補者ばかりが検挙される。）

（民政党内閣での選挙では、政友会の候補者ばかりが検挙される。）

昭和戦前期にはこの傾向があまりに酷くなったことで「政党は官僚に口出しするな」
との国民の声が強まり、政党よりも軍部（陸軍）の方が信頼できると国民の多くが

思う様になる原因にもなった。(その結果、戦争前の頃には軍部が力を持ち始めた。)

- 軍隊や警察や情報機関(諜報・スパイなど)は与党のためだけに利用されるのは良くない。でも独立しすぎると勝手な行動があっても止められず、文民統制が効かなくなる。(軍人が自分達は専門家だ!と言って国民の言うことを聞かなくなる。)(韓国でも大統領選で国家情報院(情報機関旧KCIA)によって与党(パククネ大統領)に有利な情報を流させたとして問題になった。)
- ・・途上国では現政権の犯罪・スキャンダルは事件にしない、などは日常茶飯事。

＜各国の官僚制 強い官僚制・弱い官僚制＞

- 「官僚制」については、強い官僚制が整備されている国と弱い国がある。官僚制の弱い国の典型例がアメリカ。良くも悪くも官僚制は弱く、それに伴う問題もある。「獵官制」と言われ、大統領が国内の多くの政府ポストの任命権を握る。
- アメリカでは大統領が替われば全国で約3500の官職で入れ替わりが発生する。アメリカを代表して外国に行く大使も様々な貢献を考慮し大統領の意向で決まる。(例えば以前の在日米国大使は、キャロライン・ケネディ氏。政治経験なしだが有名人だから?)(大統領選挙の時にオバマ氏を応援したから?たくさんの政治献金をしてくれたという貢献で大使に決まった例も。)それも認められるのが「獵官制」。

★:「官僚制:音源④D」

[キーワード:【獵官制】]

- 「獵官制」(スポイルズ・システム:spoils system)とは?
 - ・・選挙に勝ったら政府のポスト(獲物・戦利品=spoils)を山分け。
 - ・・アメリカやイギリスなどで採用されている制度。「党人任用」。
 - ・・専門の官僚制を極力小さくする。つまりプロの官僚は少なくても良い。

次回★:「官僚制:音源⑤E」

獵官制とは、言い換えると、しっかりとした恒常的な官僚制は必要ないという考え。
○それに対して日・独・仏などでは官僚機構が強い。官僚制がしっかりとある方が
良いという考え(=「メリット・システム(Merit system)=資格任用制)

＜質問カード・コメントカードへの応答＞

Q 「」

A 「」
